

2021年度 事業報告書

事業名

盲導犬事業 〈公1〉

社会適応推進事業 〈公2〉

管理部門 〈法人会計〉

自：2021年 4月 1日

至：2022年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

(2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

■ 盲導犬の育成・貸与事業

1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

1) 視覚障がい者への盲導犬貸与目標11頭に対して10頭を貸与した。その他1ケースの共同訓練中止があった。

・新型コロナウイルス感染症のため共同訓練を1か月遅れて開始し、感染予防のため在宅訓練による共同訓練とした。

・貸与地域：道内9頭、道外1頭（宮城県）

・盲導犬実働数81頭（年度末時点・前年比+4頭）

2) 2021年度の訓練犬30頭に対して、16頭が盲導犬の作業における訓練基準認定目標を達成した。その中から、健康面や日常生活面等の状況を踏まえて2022年度の盲導犬申込者にマッチングする。

(2021年度訓練犬30頭の詳細)

2021年度適性評価合致犬	28頭	2020年度適性評価合致犬	2頭
---------------	-----	---------------	----

3) 盲導犬ユーザーのサポート体制強化のため、安心・安全の観点から次の事項に取り組んだ。

・新型コロナウイルス感染予防に対応するため、共同訓練は在宅訓練とした。

また、在宅訓練期間中でもオンラインを活用してケース会議を実施し、ユニットの卒業に向けて指導員間で意見交換を行った。新しい試みとして、共同訓練終了式をオンラインで行い、クライアントと協会のつながりを強化した。

- ・盲導犬ハーネス用の新しい啓発表示の試作を重ね完成させた。今後は盲導犬ユーザーへの頒布を検討する。

4) 訓練士・指導員の養成において次の事項に取り組んだ。

- ・研修生1名が盲導犬訓練士の認定を受けた。また盲導犬訓練士1名が盲導犬歩行指導員資格審査を受け合格内定を得た。
- ・2022年度採用者への運用に向けて他の部署と連携した養成1年目のカリキュラム案を作成した。

2. 繁殖に関すること

1) 出産頭数は60～75頭（出産件数15腹前後）の計画に対して67頭であった。

出産件数	出産頭数	委託頭数	譲渡頭数	譲受頭数
16腹	67頭	55頭	12頭	0頭

- ・出産頭数は死産や出産後死亡犬、育仔中にCCとなった犬を除く
- ・67(出産)-12(他施設譲渡)=55(委託)
- ・他施設への譲渡は、繁殖協力や子返しのため実施したものである。

2) 繁殖犬として新たにラブラドル6頭（オス1、メス5）を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努めた。

- ・現繁殖犬数 オス 17頭 メス 34頭
- ・引退繁殖犬 オス0頭 メス25頭

3) アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク(略称：AGBN)のGD-Bartテストをパピー犬55頭に対して実施して、AGBNが目指すアジア地域全体の盲導犬の育種改良に協力した。

4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けて、年間繁殖計画及び繁殖犬飼育委託体制について説明会を実施して、理解促進を図った。

- ・出席16件
- ・対象76件（繁殖犬51件、引退繁殖犬25件）

3. パピーウォーキングに関すること

1) 2022年度訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を55頭委託した。

・2-(1)実務実績の表による。

・2020年度に委託したパピー55頭の委託を終了し、適性評価を実施した。

委託終了	訓練導入	繁殖犬	キャリア チェンジ
55頭	28頭	6頭	21頭

2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を実施した。

・委託終了までの間に、講習会を3回及び家庭訪問を3～4回実施して、パピーの飼育指導にあたった。

・パピー講習会、委託式 40回実施

・家庭訪問 168回実施

・新型コロナウイルス感染症対策として、参加する頭数や人数制限をしながら講習会を実施した。

3) コロナ禍におけるパピーの飼育指導の在り方を検討して実施した。

・オンラインによる講習会 2回

・オンラインを利用したパピーウォーカー希望者の面談 25ケース

・新たに講習会内容を3本動画にしてYouTubeにアップロードして、飼育委託関係者が自主学習できるシステム作りを行った（総配信動画数15本）。

4. ケネル・老犬ホームに関すること

1) 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言のため、家庭訪問は病犬及び高齢犬に限定し、その他の飼育委託犬は来所の機会に相談業務や健康ケア

を行い、老犬の飼育環境を整えるアドバイスに繋げた。

・老犬管理頭数 老犬ホーム3頭 飼育委託66頭 計69頭（年度末）

2) 担当職員で老犬飼育委託家庭への訪問件数の分担を行った。また新任者には主に病犬の対応を担当させることにより、責任と経験を積ませた。

3) 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により、新規飼育者については訪問の時期をずらすなどして、滞りなく委託手続きを完了した。

4) 狂犬病予防接種・混合ワクチン接種・畜犬登録についての手順や改善点を明確にして、次年度に繋げられる体制を整えた。

5. 研修に関すること

1) 新型コロナウイルス感染症のため当初派遣を予定していた対面での研修会は中止になったが、IGDF国際セミナーのウェビナーの閲覧や次のセミナーにオンラインを活用して参加させてスキルアップに努めた。

・第7回盲導犬育成ジャパンセミナー（オンライン）に11名が参加し、うち1名が共同訓練に関する事例発表を行い、1名が北海道内における眼科医療との連携への取り組みについて研究・発表を行った。

・日本歩行訓練士会夏季研修会及び冬季研修会（オンライン）に3名が参加し、専門技術の向上に努めた。

・第29回視覚障害リハビリテーション研究発表大会（オンライン）に3名が参加し、全国の視覚障害に関する最新情報の収集を行った。

・全国施設連合会施設職員相互研修会（オンライン）「パピープログラム研修」及び「犬舎管理担当者研修」に各2名が参加し、各施設の取り組みや課題を協議した。

- 2) 指導員の指導力レベルアップを図るため、内部のケース会議及びケース発表により事例研究を行った。他施設の訓練見学は見送った。
- 3) 新任職員研修の一環として繁殖パピー担当者、老犬ケネル担当者に行っていた犬の訓練研修は、アイマスク評価を経て、4月に振り返りを行い、完了した。今後も新任研修の一環として取り入れていきたい。
- 4) 自主研究や自己啓発の主な取り組みは次のとおりである。
 - ・指導部職員4名が、日本臨床獣医学フォーラム（オンライン）を受講し、犬の病気やハズバンダリートレーニングなどの専門知識を学んだ。
 - ・指導部職員2名が民間のドッグトレーナー育成コースを受講し、動物行動学や行動分析学を学んだ。
 - ・指導部職員1名が札幌市小動物獣医師会市民公開講座を受講し、犬の食事と健康について最新情報を学んだ。
 - ・事務部職員1名がファンドレイジングに関するセミナーを受講し、寄付を財源として活動する国内外の団体の最新事例を学んだ。

6. 犬具飼料等の頒布に関すること

- 1) 盲導犬ユーザー、飼育委託ボランティアが購入する犬具・飼料について、仕入れにより標準価格の7割程度で頒布して、費用負担の軽減を図った。
 - ・取扱数 飼料33件 犬具257件
- 2) 盲導犬ユーザー、生活訓練受講生を中心に歩行補助具・日常生活用具の情報提供及び頒布を行い、日常生活をサポートした。
 - ・取扱数 用具41件

■ 普及啓発事業

1. 盲導犬の普及啓発に関すること

- 1) 新型コロナウイルス感染症のため盲導犬宿泊体験セミナーは中止したが、新たに盲導犬個別体験会を計画し関係団体等を通じて告知し、5名に実施した。（札幌4名・旭川1名）
- 2) 自治体、教育機関、福祉事業者等が実施する盲導犬講習会に講師（当協会職員）を派遣し、盲導犬と視覚障害に関する啓発を推進した。
 - ・自治体1件（釧路町）
 - ・教育機関28件（幼稚園5・小学校10・中学校5・高校2・専門学校4・大学2）
 - うちオンライン講習会（専門学校1件、保育園1件）
 - ・福祉事業者2件
- 3) 福祉事業者1社から移動支援従事者及び同行援護従事者を対象とした勉強会の依頼を受けて専門的なセミナーを企画実施した。
- 4) 関係団体、商業施設、支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活動を実施した。
 - ・大丸札幌店、北海道どさんこプラザ札幌店、アリオ札幌等28か所での啓発活動を実施した。
- 5) 個人を対象としたオンライン見学会を2回開催した。
 - ・9月18日 札幌・恵庭・深川などから9名参加
 - ・12月25日 札幌・北広島・芽室・新冠などから11名参加
- 6) 盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を頒布して、盲導犬育成事業に対する理解と募金への協力に繋げた。
 - ・新型コロナウイルス感染症によるイベントが中止になる中、主に協会来所者を中心とした頒布に取り組んだ。

・頒布実績260件（協会来所者249件 啓発イベント11件）

7) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を年2回各17000部発行した。

・7月16日第71号発行 ・1月18日第72号発行

8) コロナ禍における新たな啓発活動として、ソーシャルメディアを活用した
情報発信・見学会・セミナー等を企画し、取り組みを行った。

・北海道盲導犬協会公式YouTubeチャンネルへの動画投稿を本格化し、動画8本
を配信した。

・チャンネル登録者数1083名 ・動画再生総回数28,499回(投稿開始～3/31迄)

■ 調査研究事業

1. 調査・研究に関すること

1) 受精卵移植技術の確立を目指して、共同研究機関に7頭分の受精卵提供を
行った。

・5頭分の受精卵を代雌に移植したが、不受胎であった。

2) A G B Nの盲導犬改良システムの構築研究事業に協力した。

・繁殖に関すること 3) 参照

■ その他事業

1. 財源確保に関すること

1) 協会ホームページに啓発イベント・募金活動情報及び動画配信等の新着情
報を19回掲載して協力者拡大や継続支援に繋げた。

寄付者数	1,868名	延べ寄付者数	2,886件
------	--------	--------	--------

2) 啓発イベント・募金活動でのパンフレット配布の他、支援企業にも配布協力を積極的に依頼してサポート会員の増加を図った。

	全体	個人会員	法人会員	前年比
新規会員数	175件	171名	4社	-68件
総会員数	2,002件	1,941名	61社	+18件

3) 支援企業12社から協賛金を募り、ポスター型カレンダー5,500枚を制作して支援者等に広く配布し、継続支援を依頼した。

4) 募金箱の新規設置目標200カ所に対して、602カ所に設置した。

	全体	札幌市	道内	道外	前年比
新規設置数	602件	218件	376件	8件	+434件
除台数	156件	65件	80件	11件	-85件
総設置数	6,953件	3,510件	2,950件	493件	+446件

5) 募金箱の定期訪問回収と設置者への送金の依頼、設置状況の確認を行う等、募金箱を適切に管理し、4,151カ所からの募金入金があった。

- ・札幌市内は定期訪問回収、市外は送金依頼文書の送付を行った。

6) 新型コロナウイルス感染拡大状況を見極めながら街頭等での募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、協力者の拡大に努めた。

- ・上半期 活動自粛

- ・下半期 10月 帯広の関係団体と共同で募金活動を実施

11月 北海道どさんこプラザにて3日間の募金活動を実施

7) キャッシュレス決済の普及を見据えて、国内のキャッシュレス決済普及状況の情報収集と募金箱収入実績への影響について評価した。

2. 関連団体との協力連携に関すること

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会の活動に協力し、視覚障害者や盲導犬の社会環境整備に参画した。

3. その他

- ・車両更新計画に基づき民間助成団体に助成申請した訓練車両（1台）は、不採択となった。（参考）申請団体の今年度採択率7.6%

社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

(2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

1. 生活訓練の実施に関すること

1) 短期入所訓練は、新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに基づいて実施し、目標10回開講、10ケース受入れに対して、7回開催、7ケースを実施した。また、新規訓練希望者は目標4名に対して3名の受入となった。目標に対する実施ケース数の減少は、緊急事態宣言による受入れ自粛によるものである。

開講数	訓練日程	訓練期間	受入人数				計	
			札幌市内		道内			
			新規	継続	新規	継続		
上期	1	7月 5日～ 7月16日	2 週間				1	1
	2	7月15日～ 7月25日	2 週間	1				1
下期	3	10月 4日～ 10月11日	1 週間				1	1
	4	11月 9日～ 11月18日	2 週間			1		1
	5	11月29日～ 12月 8日	2 週間				1	1
	6	1月17日～ 1月28日	2 週間				1	1
	7	3月 2日～ 3月15日	2 週間			1		1
合計				1	0	2	4	7

※新型コロナウイルス感染対策として1クラスの受入数を1名とし、3週間以内としていた入所期間を2週間以内に短縮した。

(参考) 緊急事態宣言期間 5月16日～6月20日、8月27日～9月30日

まん延防止等重点措置期間 5月9日～5月15日、6月21日～7月11日

8月2日～8月26日、1月27日～3月21日

2) 新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに基づいて通所及び訪問による指導を行った。指導数は目標月5ケースのところ、月平均5.92ケースとなった。

※前記の通所及び訪問による指導ケース数は、受講者の訓練期間により変動するため、受講者数は月平均で示すこととする。

	前年度より 継続	新規開始	訓練終了	次年度に 継続	訓練総回数
訪問訓練実績	5ケース	6ケース	4ケース	7ケース	169回
通所訓練実績	今年度未実施				

3) ケース会議を実施し、訓練生の訓練達成度の評価及び状況確認、今後の対応について計画した。

- ・入所訓練：クラス終了毎に開催
- ・訪問及び通所訓練：4半期に1回開催

4) 新型コロナウイルス感染予防による入所数制限により、受け入れできない希望者には札幌市以外であっても応急的に訪問指導を行った。実施数は6名、延べ8回訪問訓練を実施した。その他、新型コロナウイルス感染拡大への不安から訪問訓練希望者1名から訓練延期の申し出を受けた。

2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

1) 道内の視覚障がい者及び関係者に対して、当協会の生活訓練事業を啓発するため、北見を選定し相談セミナーの開催を計画したが、緊急事態宣言のため中止した。2022年度開催に向けて関係者と協議を続け、2022年7月に開催することを確認した。

2) 盲導犬使用希望者及び生活訓練受講希望者の顕在化に取り組むために、ロービジョンケアの集まり等に参加し、盲導犬・生活訓練に関する情報提供を行った。

(参加実績)

- ・ロービジョンケア北海道5回（うち、オンライン開催2回。オンラインは当協

会が運営をサポートした。)

- ・ロービジョンケア旭川6回（全てオンライン開催）
- ・ロービジョンケア十勝1回（対面開催）
- ・札幌市視覚障害者福祉協会の行事に参加し、盲導犬の体験会を実施

3) 北海道眼科医会との共催により計画した「第1回ロービジョンケア講習会」（「教育・体験セミナー」より改称）は、緊急事態宣言期間と重なり中止を決定した。次年度は2022年5月14日に開催する。

4) 開催協力を要請されていた日本眼科医会創立90周年並びに北海道眼科医会創立70周年記念事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止された。なお、当協会は北海道眼科医会創立記念表彰者に選定され特別感謝状を受けた。

5) ロービジョンケアを実施する医療機関での開催を計画していた日常生活用具展示会及び相談会は、緊急事態宣言等により実施できなかった。

6) 対面での活動に代わる医療機関との連携強化策として、新たに相談支援報告書様式を作成し、医療機関の紹介による受講者については、担当医師等に訓練成果をフィードバックする仕組みを検討して、整備した。

7) 生活訓練受講者に盲導犬個別体験会の情報提供を行い、再利用のきっかけづくりに取り組んだ。また、利用者向けの白杖紹介・訓練紹介リーフレットの改訂に着手し完成させた。

管理部門 <法人会計>

(2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

1. 理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行った

1) 任期満了に伴う理事、監事、評議員の選任

現在数 理事10名・監事2名・評議員10名

2) 理事会の開催状況

第40回理事会 6月7日 第41回理事会 6月28日

第42回理事会 11月8日 第43回理事会 3月11日 書面決議

3) 評議員会の開催状況

第25回評議員会 6月28日 第26回評議員会 3月18日 書面決議

4) 評議員委員会の開催

評議員選定委員会 6月25日

5) 三役会、経営会議の開催状況

第1回経営会議 4月26日 第7回経営会議 10月26日

第2回経営会議 5月25日 第8回経営会議 11月22日

第3回経営会議 6月28日 第9回経営会議 12月22日

第4回経営会議 7月29日 第10回経営会議 1月25日

第5回経営会議 8月26日 第11回経営会議 2月22日

第6回経営会議 9月27日 第12回経営会議 3月28日

2. 新型コロナウイルス感染症拡大のため前年度から延期していた設立50周年記念事業は、収束の見通しが立たず中止を決定した。

3. 防災対策及び犬舎の暑さ対策を次のとおり進めた。

- ・ 電話設備更新工事契約を締結した。なお、自動火災報知設備の更新は次年度の事業とした。
- ・ 犬舎窓の遮熱フィルム施工を完了した。

4. リモート会議システムを導入し、運用を開始した。

5. 当協会の新型コロナウイルス感染予防ガイドラインの運用状況や自治体の指針等を勘案し、次のとおり必要な措置を講じた。

- ・ 共同訓練用感染予防ガイドラインを改訂した。
- ・ 職員に対して新型コロナワクチン接種情報を7月下旬～8月下旬にかけて2度提供した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に係る出勤自粛基準を定めた。

6. 動物の愛護および管理に関する法律の改正にともない、犬舎で管理している犬の飼養管理について、内部で検討会を立ち上げ、当協会における飼養管理ガイドラインを作成することとした。

7. 人事異動等

- ・ 事務部職員1名定年退職
- ・ 指導部職員1名退職
- ・ 事務部パート職員1名退職、1名採用
- ・ 2022年1月より指導部ユーザーサポート担当設置
- ・ 課長職、係長職新設

8. 施設に関すること

1) 施設所在地

北海道札幌市南区南30条西8丁目1-1

2) 施設の状況（敷地面積や建物の状況）

敷地面積 3306㎡

本 棟 (構造等) 耐火造地上3階 床面積442.16㎡ 延べ面積1100.88㎡

(主設備) 事務室・食堂・厨房・入所生室5・生活訓練室2

相談室1・浴室男女・手入れ室・ホール

訓練棟 (構造等) 耐火造地上一部3階

床面積985.07㎡ 延べ面積1432.18㎡

(主設備) 指導員室・調理室・老犬ホーム・訓練犬室・治療室

犬の浴室・交配室・隔離室・研修室・ボランティア室

3) 職員の在籍状況

		常勤	パート	非常勤	備考
	所 長	1			
事務部	総務・普及	2	1		
	経 理	2	2		
指導部	生活訓練	3			白杖指導員2人、生活指導員1人
	繁殖・ハビター	3	1	1	非常勤者は実働月4日
	盲導犬訓練	4	1		指導員3人、訓練士2人
	ユーザーサポート	1			
	老犬ケネル	2	4	4	非常勤者は夜間宿直業務実働月8日
	施設管理	1			
		19	9	5	

4) 盲導犬歩行指導員等の資格保有状況

	男	女	備考
盲導犬歩行指導員	4	2	
盲導犬訓練士	2		
白杖歩行指導員	2	2	
生活訓練指導員	1	1	
	9	5	

※他業務に従事している者を含む。